

令和4年度 第2回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年7月8日(金)10:30~12:00

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・以登田 毅・木下 さひ子・藤浦 清美・前馬 晋策・橋爪 恵子・河合 隆之

欠席委員:佐野 英和・寺田 洋子・武友 加代子・谷口 浩之 (敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

梅雨が明けて、急激に暑くなった。体が慣れずにバテ気味の児童もいる。熱中症も心配なところ。

今朝、テレビ放送で本校の取組み「足はやチャレンジ」が取り上げられた。本取組みの目的は、生活習慣の改善。熱中症も睡眠不足が大きく影響するが、健康のため、睡眠や食事の大切さについていかに子どもたちに伝え、考えさせるかが命題である。

テレビで取り上げられる前日の朝刊(毎日)でも取り上げられており、「面白い取組みだ」とコメントされていた。今後、足が速くなるダンスとともに、食事の大切さの学習についても、引き続き取り組んでいく。

本日は、3時間目の授業を中心に参観していただき、それをもとに協議を進めたい。参観の前に質問等はないだろうか。

委員 前回の協議会で話題に上っていた、運動場の件についてご報告差し上げたい。エネゲートの総務部長に、エネゲート内にあるスペースについて訊いたところ「奥に空き地はあるが、現在資材置き場にしているのでなかなかお貸しするのは難しい」との返事だった。

委員 摂津市内の学校でも新型コロナウイルス感染症の影響が出ていて学級閉鎖になっているところもあると聞いている。千里丘小学校では大丈夫か。

校長 確かに増えてきていると報道されてきているが、千里丘小学校ではまだそこまで増えていない。就学前施設などはどうだろう。

委員 コロナも心配だが、同時に熱中症も心配なところ。「足はやチャレンジ」だが、学校の思いがもっと前に出てほしい。子どものための取組みであり、学校が主体として取り組んでいること、“学校が子どもにこんな思いを持っている”ということを記事で取り上げてほしかった。

校長 学校が取り組んでいることを報道にお伝えはしたが、取り上げてもらえなかった。

委員 「足はやチャレンジ」は、学校が掲げた目標に沿って、国循とダンス協会が協力してくれている、ということで、学校が仕切っているということは伝わったようにも感じた。テレビで使われていた映像は、国循やダンス協会から提供されたものだろうか。

校長 テレビは、毎日新聞の記事を見て「面白い取組みだ」とダンス協会に問い合わせがあったということだ。

委員 確かに「ダンス協会 提供」とのテロップがあった。

校長 ダンス協会や国循には“小学生の段階からの生活習慣改善という取組みを全国に広めたい”という思いがある。今は本校がモデルとなって取組を作り、練り上げている段階である。最初から報道ありきで行っている取組みではない。

委員 千里丘小学校では「足が速くなる」ためには生活習慣を正す必要がある、という発想で取り組んでいる。以前、ある学校では「足が速くなること」のみを目的にこのダンスに取り組んだが、そもそも睡眠時間が不足している子が速く走れるわけがない。そういう意味では、前に取り組んでいた学校の取組みより進化している。

委員 アナウンサーやコメンテーターが、取組みを上手に関連付けながら報道してくれていたと思う。

委員 実際に速くなって来るものなのだろうか。成果が出ると、子どもも楽しい。

委員 結構速くなるみたいだ。

委員 私も「足が速くなるダンス」に取り組んでみたい。ダンスの映像のとおりにはできないが、ゆっくり、短目になら取り組める。

校長 実は“低学年向け”“シニア向け”など、色々なバージョンがある。『日本ストリートダンススタジオ協会』のサイトに、いろんな取組みが紹介されているので、ご覧いただけたらと思う。

校長 今、予鈴が鳴って混雑しているところだが、なかなか廊下を走るのが止まらず、課題となっている。そこで、児童会でできることを考え、廊下を走ることの危険を訴える映像を作って流している。70周年記念でいただいたサイネージを活用している。その様子なども含めて参観いただけたらと思う。

2. 授業参観

4年生：国語（新聞づくり）

3年生：国語（ふりかえり）

6－2：家庭科（洗濯実習）

6－1：外国語（行ってみたい国についての紹介プレゼン）

5－1：社会（日本の気候の異なる地域の暮らしについての紹介プレゼン）

1－2：音楽（リズムあそび）

支援：国語&自立活動

3. 協議

校長 主なところを見て頂いた。教職員も若い人が増えて来ており、初任者も2名配置されている。初任者に聞くと、新型コロナウイルスの影響で学生時代、教育実習もオンラインになり、子どもに関わるのが3日間だけだった、とのことだ。教員の状況、児童の状況、施設の面など、ご意見、ご感想、ご質問をお伺いしたい。

委員 どのクラスも楽しそうに学習していた。ノリがよく、誰が見ても授業が活発だと思う。ただ、一方でノリについていけず「置いてけぼり」にされている子もいる。ノッていない子をどれだけフォローできるかが気になる。

また、先生の机が教室の後ろにあった。今までは“教師の机は教室の前”という固定概念があった。こんな教室にしたい、という思いからの配置だろう。

委員 先生のレベルに差があった。１０年経験者と新任の先生とはやはり違う。どのように育成に取り組んでいくのか。育成は本当に必要だと思う。

また、みんながみんなノリのいい先生ばかりではないし、ノリのいい先生が苦手な児童もいると思う。元気いっぱい先生、物静かな先生、いろいろな先生がいていい。それぞれの先生の個性を大切にした上で指導してほしい。授業を見ていて“どの教室もいいな”と思った。

委員 ある教室で最初の５分、教科書を出していない児童がいた。教科書が出ているかのチェックなど、最初の声かけが必要かと思う。

英語の先生は英語専任の先生かと思うほど、ノリがよく授業がテンポよく進んでいた。

委員 新任の先生は副担任なのだろうか？

校長 新任も最初から一人で学級を担任し、授業を行う。

委員 副担任の先生などいたらいいと思うが、人数が足りない、とのことだから難しいのだろう。児童はどのクラスも活発・元気で伸び伸びして、挨拶もできていた。

委員 子どもの机配置だが、机はまっすぐに並べて黒板の方に向けないといけない、という固定概念が自分にはあったが、違っていた。集中している場面や授業の内容によっては配置を変えていた。学校の補助員は何年生まであるのか。

校長 本校では１学期間は１年生に配置しているが、今の摂津市の制度では“学校に〇人”という配置となっている。特別な支援が必要な児童も含めての配置である。どの学年にどう配置するかは校長が考えるので、常に１年生に配置されるというわけではない。

委員 補助員の配置は必要。教科書を開いていない児童に声かけするなど。１～２年目の経験のない教員のフォローについては、ベテランの補助があればいいと思う。教え方や先生のちょっとした声かけで、学力に差も出るのでは、と感じた。

委員 学校がきれい整備されていた。よく掃除ができていた。掲示板にも現在進行形の新しいものがあり、使い方もよくなっていた。学校が動いていることがよく伝わってきた。

学校として先生観をもっともっておかないといけないのではないかと思う。先生は、今は「知識を伝える」だけの存在ではない。先生とは「何をする人」かについて、今の教育観に照らし合わせて、校内で認識を共有する必要があるのではないか。

また、６年生の洗濯をしている様子を見ると、男女で仲が良かったが、距離が近過ぎるようにも思った。“仲がいい”のと“べったりする”のとは少し違う。これは摂津の他の学校にも言えるかもしれない。一方で「低学年から着替えを男女別に」という声があり、ギャップを感じる。

子どもは「チャンネルを切り替える練習」を学校でしていると思う。算数、国語、体育…と、チャイムが鳴って時間が変わるときにチャンネルを切り替える必要がある。しかし、ある教室では前時の板書が残ったまま次の授業を行っていた。前時の環境を残しているのは良くない。

委員 楽しく参観させていただいた。子どもたちが落ち着きたい学校の状況なのがよく分かった。先生が「前向いて」とか言わなくても話を聞こうとしている。

６年生の外国語の先生が印象的だった。外国語のスクールに行っているような感じで、いい意味で先生じゃないみたい。あの授業なら楽しく身に付くのでは、と思った。１年生は学級によって雰囲気が違うように感じた。

先生の机の位置については、大型モニターの関係もあるのだろう。工夫されているのだろうと思っ

た。

校長 環境のこと、教員の育成など、今日いただいた意見を今後活かしていきたい。

新任だけではなく、色々な年齢層の教員がいる。改めて教員が何をするのか、考える必要がある。学習の中で、子ども同士の対話や、児童によるプレゼンテーションなどに取り組んでいるが、その中でどのような教師像が求められているのか、考えていきたい。

第3回以降、その内容を軸に協議を進めていきたい

担任の机については、モニターが入った時に試行錯誤を繰り返した中で、教員の机の位置が後ろに落ち着いた印象だ。教室が狭いことに一因がある。ークラス30～35名が在籍しており、新型コロナウイルス流行以降、一人席にしている都合でさらに場所がない。

委員 教師の机は、他の学校でも後ろに置くところが多い。

セタの短冊だが、6年生の願いごとがとても現実的で、目の前のことにとらわれ過ぎているようで少し心配になった。1年生の方は夢のある願いごとが多く、安心した。どうか夢を育む千里丘小学校であってほしい。

6年生の外国語の授業については、「つかみはOK」。とても楽しかった。しかし、単元が展開されていくと授業がどうなっていくのか心配な面も感じた。

校長 あの雰囲気が1時間続くとしんどい児童もいる。静かに考える時間を作る必要もあり、難しい。金曜日にはネイティブの先生が来てくれる。市によっては、常駐している学校もあると聞くと聞くと、摂津市では週に1回、来てくれる。人材の確保には予算も必要。

委員 大規模工事の計画が始まっている。順調に進んでいるか。

校長 まさに過渡期である。細かいことを詰めていく中で色々な課題が起こってきている。旧校舎をつぶしながら建て、同時に教育活動を進めていくことが難しい。全部が完成するまでは教室数もギリギリな状態である。特別教室を仮設に移転するにあたって、備品を収める場所がないという課題もある。「教室、廊下に余裕を持ってほしい」とは訴えているが、教室数が最優先で難しい。敷地が狭く、限られている。

委員 子どもたちが犠牲にならないように進めてほしい。のびのびできる教育環境を工夫してほしい。

委員 常に新しい校舎を体験できる、というメリットを全面的に押し出して進めてほしい。

4. その他

校長 学校の増改築に関しては折々お伝えしていきたい。詳細が決まる前に、いただいたご意見を市に伝え、反映させられるようにしたい。

5. 次回日程

次回は7月28日（木）18：30より実施予定。